

11月3日(土)、11月10日(土)

「自分を見つめなおして  
キラキラ人生に！」

講師：加藤 安津香さんの感想

秋晴れの11月3日(土)、10日(土)、2回にわたり、簡単なコーチング体験を交え自分を振り返ってみるという講座が、10名を超える参加者を迎え開催されました。初めは緊張気味だった参加者の皆さんも、対話が始まるとリラックスし、お話が弾んで中断するのが難しいほどでした。「普段、意識していない自分の気持ち」「大切にしていること」「今後どのようにしていきたいか」に目を向ける不思議な時間と空間。2時間の講座中に、参加者の皆さんの表情はいきいきと、どんどん変化していきました。ご自分の今後の方向性を考える方や、人生を楽しみたい方が、一歩前に進むきっかけになったのではないのでしょうか。



講座が終了した時の、参加者の皆さんの笑顔、キラキラしたお顔が本当にキレイで、忘れられない2日間になりました。日常生活において、丁寧に対話することや、自分の気持ちにゆっくり向き合うことの大切さを改めて私も学びました。皆さんと一緒に楽しく、お風呂のような温かい場が作れたことを嬉しく思います。次回の講座開催のリクエストもいただき、大変感謝しております。また、お会いできることを楽しみにしております。

※2 地域のチカラ講座…男女共同参画社会を目指す区民が、その能力・智恵・知識等を発揮し講座を企画し、講師として活躍する場を提供することにより男女が平等に参画できる社会の実現を促進することを目的とした、男女平等推進プラザ「はばたき21」主催講座。

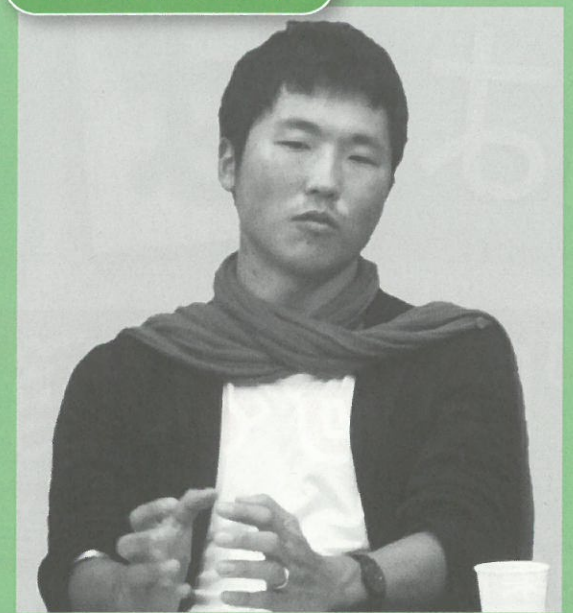
「夜の世界で働く女性たち」<sup>※1</sup>を支援する角間 惇一郎さん(29歳)。ハードルが高そうな世界に「入口がたまたま開いて、入れるようになっていたので入っちゃった」とさらりと答える。人に言われたことではなく、自分で見つけた課題に向かった時、恐れも恥じらいも感じなかったと言う。夜の暗闇を照らす角間さんのストーリーをうかがいました。



「かわいそうにやめさせなきゃ」それはだめだと。彼女たちが変わるきっかけは自分の中からしか生まれません。

越谷は結婚してから住んだ土地なんです。越谷って、埼玉で5番目に人口が多くて、その中でも若い人が一番多いんですが、若い人が地元を目指す機会が少なかった。地域の大学生に何か

Interview



かくま じゅんいちろう  
**角間 惇一郎さん**  
グロウ アス ピープル  
(一般社団法人 Grow As People 代表理事)  
(越谷市男女共同参画推進委員会委員)

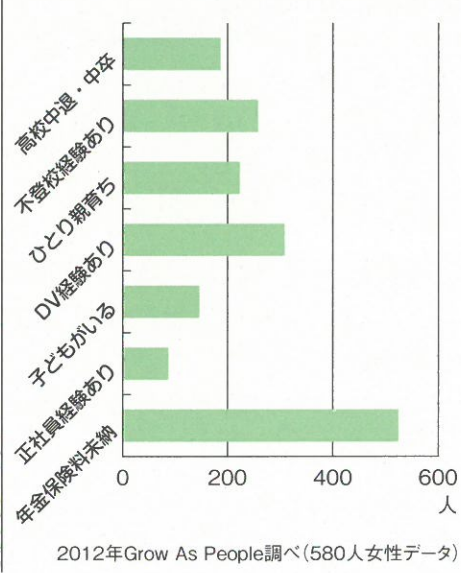
- 1983年 新潟県生まれ
- 2001年(18歳) 大学に入学。青年海外協力隊の広告に触発され半年で中退
- 2002年(19歳) 建築関係の専門学校(夜間)へ入学
- 2004年(21歳) 建築士の資格を取得ゼネコンに就職
- 2006年(23歳) 結婚
- 2007年(24歳) 第一子誕生
- 2009年(26歳) NPO「まちたみ」設立 埼玉県越谷市で地域コミュニティ活性化支援を行う
- 2012年(29歳) Grow As People 設立。「夜の世界で働く女性たち」の就職・起業、生活支援を開始

「夜の世界で働く女性たち」へ向けた Grow As Peopleの取り組み

- ★ お金の学習：収入と支出を見直し、貯金を促す。
- ★ 調査とまとめ：どんな人が、何に困り、なぜ働くのか？を把握し開示する。
- ★ シェアハウスの提供：地域の遊休放置物件をリノベーション(改装)し、低価格で提供。
- ★ かわいい × カジュアルプログラム(「Crejo」プロジェクト)の推進：「かわいい」感性をビジネスに活用。

Grow As Peopleの問い合わせ先：info@growaspeople.org

「夜の世界で働く女性たち」の背景



今この時間に何かしてあげたい相手が、何をしたいか想像できるかできないか。

何となく何をしているかは、すぐわかる。あの人はこうしているだろうとか。それくらいまで踏み込まないと何もできないと思う。届かない相

できないかなと、サラリーマンをしながら活動していました。ある日、開催したイベントに、越谷で風俗店を営んでいる人がたまたま来ていた。名刺交換の時は「わあ怖い」「変な感じの人がいるぞ」と戸惑いました。でも、どうやら同じ年で子どももいて、熱心だし、話を聞いてみようかなと思っただけです。彼が言うには、風俗店で働いている女性たちは、本当にいろいろな問題を抱えていると。ちょうど大阪で風俗嬢がマンションに幼児2人を置き去りにして、餓死させた事件と時期的に重なっていました。彼女たちが子どもを産み育てるタイミングで、こういう事件と重なる現状があり、彼は何かしなくてはと思っている。それが、すごいショックで。ずっと途上国のことを思ってきたのに、自分が気づかないだけで、この日本にも、自分が活動しているこの地域にも、困っている人た

ちがいて、何で困っているかも完全にわかっていなくて、放置されている人たちがいる。ああ何かこれは大変、ああ何か気づいてしまったという感じで…。彼の話がずっと引かかって、頭の中がもやもやするんですよ。僕が格好良く思う人って、自分の気づいた課題を放置してこなかった人たちだったんです。誰かに言われて助けに行くんじゃなくて、自分で何かを届けているんです、その人たちは。たまたま僕は流れの中で気づいた。もやもやしなながらも会社を辞め、彼のところにインタビューに行った。1年半で約600人の夜の世界で働く女性たちの話を聞いて、グロウ・アス・ピープルを立ち上げました。

妻はキレましたね。月給がいきなり3万円とかになっただけです。僕は思いつきで動くところがあり、夜の世界は恐ろしいけど、見てみたいと勢いでやってしまった。冷静に考えると、一般的には、自分の人生を勢いで決めるというのは難しいですよ。僕、天然パーマで、思春期はコンプレックスで悩んでいた。でも、ある日気づいたんです。僕の頭なんて誰も見ていないって。(笑)誰かが自分のこと、こう見ているなんて自分の中にしかなくて、自分がそう思い込んでいただけだった。だから、僕が風俗関係のことに入っていくのがいいじゃないか、どうでもよくて、だってみんな見ていないじゃないか。て。一番困ったのが妻の両親に何て言うかでした。(笑)

手の顔が見えないと、勝手に自分一人で動いて、ダンスしていることになり上手くない。気づいたことがあれば、もっと中まで入り込んでいっていいんじゃないかな。妻はキレましたね。月給がいきなり3万円とかになっただけです。僕は思いつきで動くところがあり、夜の世界は恐ろしいけど、見てみたいと勢いでやってしまった。冷静に考えると、一般的には、自分の人生を勢いで決めるというのは難しいですよ。僕、天然パーマで、思春期はコンプレックスで悩んでいた。でも、ある日気づいたんです。僕の頭なんて誰も見ていないって。(笑)誰かが自分のこと、こう見ているなんて自分の中にしかなくて、自分がそう思い込んでいただけだった。だから、僕が風俗関係のことに入っていくのがいいじゃないか、どうでもよくて、だってみんな見ていないじゃないか。て。一番困ったのが妻の両親に何て言うかでした。(笑)

※1 「夜の世界で働く女性たち」…現在性風俗関係の仕事を行っている女性